

第3期下諏訪町未来を創る総合戦略（案）に関する意見募集結果について

- 1 意見の募集期間：令和8年1月29日（木）から令和8年2月27日（金）
- 2 資料の公表場所：総務課企画係窓口での閲覧、町ホームページへの掲載
- 3 意見募集の周知方法：クローズアップしもすわ及び町ホームページへの記事掲載、町議会全員協議会説明、しもすわインフォ及び町メール配信、町内班回覧
- 4 意見の受付方法：意見提出用紙の様式により、郵送、総務課企画係窓口、FAX、電子メールで受付
- 5 募集結果：意見提出者3名、提出件数13件

番号	提出意見(原文どおり記載)	町の考え方
1	<p>9ページ【脱炭素社会の実現に向けた環境づくりの推進】</p> <p>ゼロカーボン施策の推進</p> <p>回覧板のデジタル化を望みます</p> <p>全戸配布の「クローズアップしもすわ」「議会だより」などの冊子、用紙</p> <p>公民館から持ち帰るのも重くて大変で、班ごとの仕分けも時間がかかります。</p> <p>下諏訪町全世帯となると紙の量も、相当な枚数となります。</p> <p>下諏訪町役場のホームページにも回覧、配布物の内容が見れるの状態なので下諏訪町からの配布物だけでもデジタル版の案内の紙に配布物の内容とホームページの案内の紙1枚で済むと思います。</p> <p>また、紙の配布物が見たい方は公民館まで取りに来るような出来れば良いと思います。</p> <p>茅野市、松本市の一部の地域では回覧板がデキタル化しています。</p>	<p>回覧板のデジタル化については、時間と手間の削減が見込まれる一方、デジタル機器に不慣れな方への対応等について配慮する必要があります。紙の配布物は公民館等まで取りに来るという方法は、現在ご自宅に届いている方にとっては、ご理解いただくことが難しいのではないかと考えます。</p> <p>他市町村で回覧板をデジタル化した地域では、その地域の住民の方が協議し、合意したうえで実施しております。町としましても、地域の方が合意のうえ、例えばホームページの閲覧のみでよい世帯と、紙での配布を希望する世帯を地域で把握していただき、希望する世帯のみ配布するといった方法にご協力いただければ、対応させていただきたいと思えます。</p> <p>クローズアップしもすわについては、「下諏訪町公式アプリ<しもすわインフォ>」でも配信し、手軽にご覧いただける環境づくりを進めております。一方で、紙媒体を必要とされる方も多いため、現時点では紙での配布も必要であると考えております。ご提案も参考に、技術の進歩等を注視しながら、負担軽減と情報伝達の確実性を両立できる手段を継続して検討してまいります。</p> <p>議会だよりについては、議会活動を町民に周知する大切な機会と捉えており、これまでどおり全戸配布を基本と考えていますが、紙面の集約、デジタルの活用等、経費節減の可能性については引き続き研究・検討を進めてまいります。</p>
2	<p>1ページ【総合戦略の策定経過】</p> <p>3ページ【基本目標】</p> <p>人口戦略の方向性(維持・増加目標)の明確化について</p> <p>本計画は人口減少時代に対応する経営戦略と位置付けられており、その整理は非常に重要であると感じました。一方で、「人口減少を前提に持続可能性を</p>	<p>国が策定した「地方創生2.0基本構想」及び「地方創生に関する総合戦略」において、人口・生産年齢人口が減少する事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じる「人口減少を正面から受け止めた上での施策展開」との方向が示されています。この姿勢を勘案して策定する本戦略は人口減少に対応し、</p>

番号	提出意見(原文どおり記載)	町の考え方
	<p>高める戦略」なのか、「人口維持を目指す戦略」なのかが明確ではない印象を受けました。少なくとも人口維持または向上を目指す姿勢を明確にすることで、移住施策・産業施策・教育施策の方向性がより具体的になると思います。</p> <p>目標人口の扱いについて、町の姿勢が明確になると良いと思います。</p>	<p>将来にわたって活力あるまちづくりを進めるための戦略として位置付けております。</p> <p>しかしながら、人口減少に対して対策を行わないというわけではなく、人口減少のスピードに抑制をかける・減少幅を小さくするという視点も取り入れつつ、今後5年間で各種施策を展開していきます。</p>
3	<p>3ページ【総合戦略の評価・検証の仕組み】 ウェルビーイング指標の導入</p> <p>本戦略ではKPIが明確に設定しますが、経済指標や満足度指標に加え、心理的なウェルビーイングを測る指標の導入もあれば良いと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への愛着 ・未来への期待 ・孤独感の有無 ・困ったときに頼れる人がいる割合 <p>などの指標を、専門家と連携し設計しながら取り入れると、他自治体との比較も可能となり、施策の具体化につながると思います。人口規模だけでなく「暮らしの質」を追求する町づくりを期待します。</p>	<p>ウェルビーイングの定義は、WHO憲章において「健康」として「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」と定義されており、非常に重要な概念と認識しております。</p> <p>当町では現在ウェルビーイング指標に係る数値がなく、ウェルビーイングという概念自体が抽象的であることから、本戦略においては、まずは各施策に対する住民満足度を多く設定させていただきました。</p> <p>今後ウェルビーイング指標の導入や調査方法等について研究を進め、町民の暮らしやすさだけでなく、幸福感についても数値化・可視化できるよう研究を行ってまいります。</p>
4	<p>6ページ～8ページ【基本目標1】</p> <p>最終KPIだけでなく中間KPIの設定について 事業所数増加や観光客数増加、転入割合向上などの最終KPIは重要ですが、その前段階として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町を知っている人の増加 ・関係人口の増加 ・問い合わせ ・相談件数 <p>などの中間指標を設定すると、より実行性が高まると感じています。成果までのプロセスを可視化するKPI設計をご検討いただければと思います。</p>	<p>本戦略には行政活動の結果として町民にもたらされる便益(アウトカム)に対するKPIを多く設定しておりますが、中間KPIとなる行政活動そのものの結果(アウトプット)に対するKPIについても下諏訪町まち・ひと・しごと創生有識者会議の委員に示し、本戦略の効果検証を行っていく予定です。</p> <p>5年間という長期間の戦略となり、硬直性を避けるため、本戦略上にアウトプットKPIは記載しませんが、毎年度行う予定である効果検証の中で本戦略に記載のアウトカムKPIと併せて公表を予定しております。</p>
5	<p>3ページ【総合戦略の評価・検証の仕組み】 6ページ【地域資源を活用した観光の推進】</p> <p>地域課題解決におけるAI活用の実証的取組について</p> <p>DX支援の記載がありますが、急速に進展するAI技術を活用し、町の個別課題に対して実証的に取り組む仕組みを設けてはと思います。</p> <p>例えば、観光振興や地域資源活用をテーマに、小規模なワーキンググループを設置し、AIを活用しながら専門家の知見も取り入れて具体策を検討・実証する取組です。</p> <p>AIを目的とするのではなく、課題解決のツールとして活用することで、自然とAI活用人材も育ち、実効性のある施策につながると考えます。</p>	<p>当町においては、庁内において業務効率化および質の向上を目的として、生成AIの導入を進めているところですが、地域課題の解決に対するAIの活用については取組が進んでいないのが現状です。</p> <p>AIについては本戦略期間中にもさらに飛躍的な進歩があると考えられますので、頂いたご意見も参考にしながら、地域課題解決に向けたAI活用の仕組みの構築に向けて研究を進めてまいります。</p>
6	<p>6ページ【地域産業の振興と起業・創業支援】</p> <p>施策の町民への周知強化について</p> <p>空き工場活用や創業支援などの施策は重要です</p>	<p>町では、令和6年度から移住ポータルサイトの「くぐると下諏訪」にて制度の周知を行っているほか、町の広報や、移住イベント、移住相談施設であるミーミー</p>

番号	提出意見(原文どおり記載)	町の考え方
	<p>が、そういった施設や場所があることを町民に十分に知られていないと感じます。</p> <p>施策の存在を町民が身近に感じられるよう、情報発信や説明機会、情報を取得できる機会(W E Bなど)の改善をいただければと思いました。</p>	<p>センタースマバにてご案内をしているところですが、補助制度が多岐に渡っておりますので、求められる補助金情報を的確にお届けできるよう、情報発信の頻度や在り方について改善してまいります。</p>
7	<p>7ページ【暮らしの利便性確保と魅力ある都市環境の向上】</p> <p>オンデマンド交通の早期導入について</p> <p>次世代モビリティの導入検討とありますが、既に具現化・成功している自治体のオンデマンド交通モデルを参考に、早期導入を実現してほしいです。</p> <p>生活の利便性向上に直結する施策であり、優先度は高いと感じます。</p> <p>(塩尻市のオンデマンドの仕組みもとても便利です。)</p>	<p>オンデマンド交通は利便性向上が期待される一方、予約システムの導入費用が高額で、乗車賃の値上げや予約の手間が生じる可能性があります。そのため、定時定路線に戻す自治体も見られます。当町では、塩尻市の事例を参考に、課題も踏まえて慎重に検証を進めたいと考えております。住民の皆様のご意見を伺いながら、持続可能な交通サービスの実現に向けて導入の可否を判断してまいります。</p>
8	<p>10ページ～12ページ【基本目標3】</p> <p>若者・子どもが安心して挑戦できる環境整備について</p> <p>全世代がいきいき暮らせる町づくりに賛同します。特に、子どもや若者が安心して新しいことに挑戦できる環境整備が重要だと感じます。</p> <p>既存の施設や仕組みが若い世代にも活用しやすい形にアップデートされることを期待します。</p>	<p>町では子育て・交流テラスわっこの開設に伴い、現在運営している子育てふれあいセンターの機能を移転する計画です。</p> <p>そのため、既存の子育てふれあいセンターについては、今ある環境を生かし、こどもの居場所や多世代が交流できる場となることを目指して、改めてこどもの居場所づくりに関わる団体の皆さまと協議の場を持ち、活用しやすい施設となるよう、詳細を検討していきたいと考えています。</p>
9	<p>4ページ【地域産業の振興と起業・創業支援】</p> <p>“取組の主な内容”に挙げられている項目の順序が気になります。新規就農の支援・間伐材の利活用を目的とした普及促進活動などがトップに並んでいます。勿論これらも重要ですが、“戦略”というからには、重要なものの順から挙げるのが妥当ではないでしょうか。重要なファクタとしては、売上高、就業人口などがあると思います。例えば、私が小学生の頃は、今の役場までリンゴ畑が続いていましたが、現在では殆どなく、今後の拡大も難しいのではないのでしょうか。それをトップに掲げるのは如何なものでしょうか。</p>	<p>ご指摘いただいた地域産業の振興と起業・創業支援中の取組の主な内容にかかる記載順については、第8次総合計画前期基本計画第4章第1節「産業の振興と発展」に掲げる順序と統一し、農業→工業→商業の順で記載をしております。</p> <p>また、掲げる事業すべてが重要であり、重要度を測ることは難しいため、本記載順にてご理解いただきますようお願いいたします。</p>
10	<p>4ページ【ものづくり支援センターを核とした販路開拓やマーケティング強化、DX化等への支援】</p> <p>“ものづくり支援センター”は先ずは技術支援・技術導入ではないですか。昔は私も講師を務めたことがあります。今も技術講習会などはやっているのでしょうか。また、町内に限らず諏訪の企業間での相互工場見学会なども主催されては如何ですか。諏訪圏工業メッセと同様に、知り合うことにより、新たな商機も生まれると思います。また、新たな技術応用も思いつきます。</p>	<p>経営基盤強化を目的とした人材育成支援として、企業に伺い、技術講習会を実施しております。また、技術講習・作業環境・品質管理等企業ニーズに合わせた講習会の実施を検討しています。</p> <p>支援センターが主催する工場見学会はございませんが、諏訪圏ものづくり推進機構や、長野県が開催する工場見学会の参加周知を行っています。また、諏訪圏域の工業コーディネーターが集まる情報交換会に参加し、経済動向や新技術の情報収集を行っています。</p>
11	<p>4ページ【空き工場等を活用した企業誘致】</p> <p>“空き工場”だけでなく、“空き地”も考慮して下さい。空き工場は中小企業で廃業したところも多く、基</p>	<p>空き地の情報についても、できるだけ把握するように努めておりますが、空き地であっても、相続等の問題で流通に至っていない土地も多く、空き地の情報収</p>

番号	提出意見(原文どおり記載)	町の考え方
	<p>本的には同種・同規模の企業を探さざるを得ず、意外に大変です。例えば荻原さんの跡地であれば、中規模以上の企業でしたらマッチングの可能性があると思います。税金だけでなく、インフラ関連の支援などが考えられます。オリンパスの跡地に時間はかかったもののPISCOさんが立派な工場を建てられました。</p>	<p>集については、不動産業者の情報に頼っている状況です。荻原製作所跡地につきましても、所有者の意向もあり、活用についてはまだ不透明な状況ではありますが、状況を注視してまいります。</p>
12	<p>5ページ【空き家を活用した移住・定住の促進】 これも空き地を含めて考えるべきかと思えます。単にこれらの紹介だけではなく、年を区切った税金の減免・例えば引湯加入無料などインフラ補助など積極的な対応が必要かと思えます。</p>	<p>ご指摘の通り、移住・定住促進の観点から、既存の空き家の利活用だけでなく、空き地を含めた土地の有効活用も極めて重要であると考えております。</p> <p>町では空き家バンクの拡充と合わせて、利活用が困難な危険空き家への対策として、令和6年度に「下諏訪町老朽危険空家除却補助金」を創設し、危険空き家の解消と跡地の流動化に向けた取り組みを強化しているところです。</p> <p>今後についても、この取り組みをさらに進めるとともに、ご意見にありました、空き地の情報提供や取り扱いの在り方などについても検討してまいります。</p> <p>また、期間を区切った税の減免等の支援策につきましては、公平性や財源等の課題も考慮したうえで、慎重な検討が必要であると考えております。</p> <p>他自治体の先進事例なども参考にしながら、効果的支援策について、引き続き研究してまいります。</p>
13	<p>6ページ【地域資源を活用した観光の推進】 星ヶ塔遺跡はタモリ効果で抜群の観光資源です。星ヶ塔ミュージアムを含む定期的なバスツアーなども如何ですか。</p> <p>ここで抜けているのですが、下諏訪の観光といたらやはり秋宮・春宮だと思います。秋宮・三井屋・本陣・旧矢崎商店・春宮などはわくわくします。</p> <p>スポーツ振興と絡めてですが、折角スポーツ大会を主催しているのですから、宿泊客も呼び込みたいものです。古くなって廃業同然の旅館もありますが、今は安い旅館も求められています。また、安い旅館のキャパができれば、学生合増加も期待できます。菅平はラグビー合宿で地位を確立しました。</p>	<p>ご意見をいただきました観光資源につきましては、具体的な名称は記載しておりませんが、本町の重要な観光資源と捉え、取組の主な内容中「観光、文化遺産、温泉等、各分野で関係機関と連携した魅力再発見及び活用促進」に位置づけております。星ヶ塔遺跡及び八島湿原につきましては、本町にとどまらず、広域的な視点による観光振興を意識した取組として例示したものとしてご理解ください。</p> <p>また、ご提案いただきました具体的な取組につきましては、別途策定しております観光振興計画と併せて検討してまいります。</p>